

# 植物グループ活動報告

指導者 岩波均 \*\*\* 白鳥保美 \*\*\* 武居三男 \*\*\* 名取陽 \*\*\*\*

植物グループでは、26年度の目標として、昨年に引き続き、八ヶ岳西麓を中心とした諏訪地方の植物について、分類・植生・生態を中心にして、地域の植物誌の研究の基礎となる特徴的な場所を選定して、生育期に毎月1度をめどに観察研究会を開き、観察、記録を実施した。それを基に、休眠期には講演会を開き研究を進展させた。

## 第1回 5月10日(日) 茅野市市民の森・吉田山

スマレを中心とした、春の植物観察調査 指導者 武居三男 参加者 14名

遊歩道に沿って、スマレ類を中心に分布調査を行った。

駐車場～頂上広場

タチツボスマレ、アカネスミレ、アケボノスマレ、サクラスマレ、ニョイスミレ

ヒゴスマレ、ニオイタチツボスマレ、マルバスマレ、スマレ

頂上広場

タチツボスマレ、ヒナスミレ、アケボノスマレ、ヒカゲスマレ

頂上広場～池

タチツボスマレ、アケボノスマレ、アカネスミレ、サクラスマレ、エゾアオイスミレ(葉のみ)

池～水車小屋

タチツボスマレ、アケボノスマレ、アカネスミレ、サクラスマレ、ニオイタチツボスマレ、

マルバスマレ

全体で12種のスマレ類が確認できた。頂上広場の草むらにヒメハギ(ヒメハギ科)やカナビキノウ(ビャクダン科)が見られた。

## 第2回 6月7日(土) 諏訪大社前宮～杖突峠旧杖突街道沿い

植物観察・標本採集実習・生態的調査の基本演習 指導者 岩波均 参加者 9名

雨模様の天候であったが、沿道の植物観察を行いながら、標本作成のための植物採集を行った。信州大学名誉教授、沖野外輝夫先生に生態学的調査法の指導を受けた。

珍しい植物は見られず採集はできなかったが、標本づくりや、調査の演習を通して図鑑の用語と、実際の形態について学んだ。

## 第3回 6月28日(土) 釜無川溪谷、大武川諏訪神社境内

石灰岩地域の植物観察調査 指導者 白鳥保美 参加者 22名

梅雨空の下、釜無溪谷の植物観察を行った。本谷までには、フサザクラの果実や、白い花を咲かせたアワブキやオオバアサガラ、ハクウンボクが見られた。

石灰岩斜面には、フジアザミの群落、本谷の平地では、ニシキウツギ、イタヤカエデ、ミヤマザクラ、シナノキ、ダケカンバ、メグスリノキ、ハウチワカエデ、サワシバなどの樹木や、シナノルリトラノオ、シナノナデシコ、トダイハハコ等石灰岩地に特有な草本が見られた。本谷奥では、クル

マバムグラ、クロクモソウ、コミヤマカタバミ、ツバメオモト、マルバコンロンソウ、クリンユキフデ、キケンショウマ、が見られ、源流では、ダケカンバ、ミズメなどの樹木が見られた。本谷の林縁では、絶滅危惧種、ツルガシワを発見することができた。大武川諏訪神社では、トチノキ、アサダ、ヤマブキソウ、カタクリ、ワニグチソウや、石灰岩地ではクモノスシダ、フジシダ、ツルデンド、イワヒバ、トダイハハコなどを見ることができた。

#### 第4回 7月19日(土) 霧ヶ峰高原

高層湿原植物相の観察 指導者 岩波均ほか 参加者 15名(一般約80名)

諏訪教育会と共催で、教育会の先生がたの指導の下、霧ヶ峰の自然や植物について、高層湿原の遷移、気象、地質、陸水、鳥類、諏訪大社御射山神社などを観察して、霧ヶ峰高原の生態系について広く学ぶことが出来た。

#### 第5回 9月27日(土) 諏訪大社奥宮神社林～御柱山

亜高山針葉樹林の植生および生態観察調査 指導者 名取陽 参加者 13名

御小屋尾根標高1900m付近の亜高山針葉樹林の遷移を考察した。昨年実施したウラジロモミ、シラビソ等の常緑針葉樹(陰樹)と、ダケカンバ、ミネザクラ等の落葉広葉樹(陽樹)の年輪測定結果を参考にして、成長競争に伴う森林生態系成立過程を推測した。午後は、ホテイラン、クモキリソウ、ギンリョウソウ、ヒトツバイチヤクソウなどの、ラン科植物や寄生植物と菌類との共生関係に注目して、御柱林生態系の多様性について観察と考察を行った。

#### 第6回 10月25日(土) 茅野市民の森、吉田山

秋の植物観察と植物標本採集 指導者 岩波均 参加者 11名

博物館に集合し、車に分乗して吉田山に向かった。素晴らしい天候に恵まれ、秋に目立つ植物の生態観察と植物採集を行った。午後、博物館において採集した植物の、押し葉標本作りの演習を行った。植物図鑑での種名の同定を行ったが、その困難さも経験し、同定の大変さを学ぶことが出来た。

#### 第7回 11月22日(土) 博物館研究室

進化の観点で植物形態について学ぶ 講演者 岩波均 参加者 一般も含め多数

「植物の形態は全て葉の変形とみなすことができる」という観点で講演が行われた。一般市民の方も含めておおくの参加者があり、興味ある内容に多数の質問も出て、予定時間を延長するほどの盛会であった。

#### 第8回 12月6日(土) 博物館講堂

熱帯アジア、乾燥アフリカの植生から八ヶ岳の植物生態について 講演者 名取陽

ボルネオ島および西ニューギニアの、熱帯アジアにおける植物の高温多湿環境への生態適応。南アフリカの砂漠における、乾燥への生態適応の映像を見て、八ヶ岳の高山植物適応の特徴を考える講演が行われた。厳しい環境条件の下で、植物を基本として、人間もふくめて、いかに多様で安定した生態系が成立しているか、映像による興味深い内容であった。 参加者 一般も含め25名

第9回 2015年2月14日(土) 博物館講堂

諏訪の植物相 講演者 白鳥保美

参加者 一般も含め20名。

1 地形や地質から見た諏訪の植物帯と相観植生

2 いろいろな場所から見る諏訪の植物

・杖突峠、塩尻峠、蓼科～八ヶ岳、諏訪湖、霧ヶ峰湿原、入笠～釜無の植物

3 諏訪に見られる植生の特徴

・諏訪湖、集落、里山、川原、湿原、草原、樹叢、亜高山帯、高山帯の植物、縞枯れ現象、暖地植物、帰化植物、多留姫の滝周辺の花暦などの特徴について。

それぞれの項目について、身近な地域の植生を中心にした興味深い講演がなされた。

以上、9回の観察会と講演会で、諏訪地域の植物について見識を深め、研究の基礎および方針を培った。

年度末の3月に行われる今年度の活動展覧会においては、各人のスペースを設けて、それぞれの研究成果を発表した。写真と植物標本を基に、貴重な観察記録研究成果が発表された。

次平成27年度は、研究員制度第1期の3年終了の区切りをむかえる。今年度までの基礎研究をふまえて、地域の植物研究のさらなる充実が期待される。

博物館研究員制度 植物班員名簿

大塚光子 大塚敏子 桑垣文子 井村悦子 上原妙子 小山京子 宮沢弘宣 小林 豊 奥原 聡  
牛山恵一 野崎順子 池澤正秀 田中宏和 矢島三喜子 上原裕雄 北沢俊弘 両角晃一  
八木橋眞知子 小林智子 斉藤彰夫 小林喜久一 小林美里 鈴木美代子 若宮稔美